紙面のガーデニング
ラルク（浦学の泉）

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

浦学だより

Vol. 90

2013.10.1

〒336-0975
埼玉県さいたま市緑区代山１７２
TEL 048-878-2101　FAX 048-878-3335
http：//www.uragaku.ac.jp/
発行者　浦和学院高等学校広報渉外部
編集者　浦和学院高等学校企画部

～２年連続12回目の夏の甲子園出場～

春の全国選抜大会優勝の興奮冷めやらぬまま、本校野球部が埼玉県代表として第95回全国高校野球選手権大会に出場しました。

１回戦、強豪の仙台育英高校（宮城）。１回戦から好カードと注目された一戦でした。エース小島（2年）は県大会決勝まで好調でしたが、この１回戦は１回裏から今までにない乱調。3回裏には、打線が援護して一挙に8点を返し、8回では小島も執念で無死満塁のピンチを切り抜けましたが、9回裏には仙台育英に１点を返され、残念ながら1回戦敗退となりました。白熱した長い試合となり、最後まで目が離せないものすごい試合でした。

県大会予選から応援してくれた全校生徒をはじめ、保護者の方々、一般の方々、本当にありがとうございました。また、生徒会、吹奏楽部・ソングリーダー部、野球部で盛り上げてきたファイヤーレッズの応援に大きな拍手を送りたいと思います。みなさんの声援があってこそ、選手たちもここまで頑張ってこられたのだと思います。次は、来春の全国選抜大会出場をめざして練習に励んでください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
浦和学院	1	0	8	1	0	0	0	0	0	10
仙台育英	6	0	0	0	0	4	0	0	1	11

部活動大会報告

テニス部

3年Ｆ組　**浅山　貴和子**
（ふじみ野市立大井中学校出身）

私達テニス部女子は、苦しい県予選を勝ち抜き、団体戦、個人戦のシングルス、ダブルスと全ての種目でインターハイに出場することが出来ました。昨年の団体戦での悔しさや出場が叶わなかった男子の想いを背負い、全国優勝を目標にして、日々練習に励みました。

志なかばの団体戦ベスト16という結果に終わりましたが、選手一人一人が全力を出し切り、応援してくれた仲間と共に戦い抜くことが出来ました。

今まで支えて下さった保護者の方々、先生方、一緒に戦ってきた仲間達に感謝し、より一層頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

男子ハンドボール部

3年K組　**斎藤　航大**
（八潮市立八潮中学校出身）

私達男子ハンドボール部は、今年の春の全国選抜大会に続き、佐賀県で行われたインターハイに出場することができました。

優勝を狙って挑んだ1回戦は、山形県の北村山高校に大差で圧勝、2回戦目も京都の洛北高校に後半で点差をつけ勝つことができました。そして、3回戦は、準優勝した愛知高校に惜しくも負けてしまいました。「守って速攻」という私達のチームカラーを大事な場面で発揮できませんでした。私たちはずっと優勝を目指していたので本当に残念でした。この3年間、厳しく指導して下さった岩本先生をはじめ、応援していただいた保護者の方々、浦学の応援団の方々に心から感謝しています。後輩達には自分達ができなかった全国制覇を目標に頑張ってもらいたいです。これからも浦学ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。

部活動大会報告

パワーリフティング部

3年１組　**谷澤　直紀**（川口市立戸塚中学校出身）

私達パワーリフティング部は、7月28日の全国大会に出場することが出来ました。今回の大会は、去年あまり良い結果を出せずにいたということもあり、部員一人一人がとても練習に力を入れ、団結力もさらに固くなりました。その結果、男子は団体優勝、女子は団体準優勝を勝ち取ることができ、個人個人でも上位に入ることができました。さらに、女子最優秀選手賞も取ることができました。

私は、パワーリフティング部の部長ができたことをとても誇りに思います。そして今まで支えて下さった保護者の方々や先生方、先輩方、そしてここまで頑張ってくれて感動の場面をつくり、期待に答えてくれた部員全員に感謝の気持ちを送りたいと思います。

ソングリーダー部

3年G組　**近藤　綾音**（川口市立西中学校出身）

私達SPLASHは、8月25日に駒沢体育館で「School＆Collegecompetition　2013」という大会に出場しました。1年生も入部し、初めての大会でしたが、結果は惜しくも6位でした。基礎からもう一度見直し、SPLASH全体のレベルの底上げと共に、個々がスキルアップできるように毎日の練習から徹底していきます。

11月に行われる大会では、まずは予選を通過し、全国大会では１位を目指して、昨年手にしたアメリカで行われる世界大会への切符を今年も手に入れたいです。そして、支えて下さっている先生方、コーチ、保護者の方々、先輩方への感謝の気持ちを忘れずにがんばります。

これからも応援よろしくお願いします。

山　岳　部

3年１組　**園原　誉彬**
（さいたま市立白幡中学校出身）

私達山岳部は、5月の埼玉県大会において県代表となり、8月1日～6日まで行われたインターハイ（第57回全国高等学校登山大会）に出場する事ができました。登山会場は、大分県「阿蘇くじゅう国立公園」です。大会前日にコースの説明があり、初日は登山の専門知識の問われるテスト、2日目～4日目は登山で、3日間で3コースを登りました。フル装備のザックは25kgを超え、日中は暑く、苦しく辛い戦いでした。審査員も24時間昼夜の別無く監視していたので、減点を恐れて気を抜けない毎日でした。今までの人生でこんなに頑張った事が無く、順位が悪くてもとても良い体験ができました。今は全国大会に出場できた事に喜びを感じています。大沼先生、倉成先生や先輩方のご指導にとても感謝しています。山に登らなければ見られない美しい景色は、私達に仲間の大切さ、努力や忍耐、夢や喜びを教えてくれました。

馬　術　部

3年H組　**佐川　亜美**
（春日部市立武里中学校出身）

私達馬術部は、7月23日～25日に静岡県御殿場市で行われたインターハイに出場しました。

23日の抽選の結果、京都府立洛水高等学校と三重県立高田高等学校との3校戦でした。

24日から試合が始まり、洛水高校の総減点が4、浦学の総減点が8、高田高校の総減点が16という結果で2位となり、初戦敗退となりました。とても悔しい結果になってしまいましたが、このチームで最後に出場できて本当によかったと思いました。

引率してくださった先生方やコーチの先生に感謝しています。

フレッシュマンキャンプ

1年N組　**大庭　悠希**（伊奈町立南中学校出身）

2日間、私は1年N組のメンバーと赤城のキャンプに行って、団結力の大切さと自然のすばらしさを学びました。

1日目にあったバーベキューでは、1人1人の役割をこなし自分達で焼いた肉、野菜を皆でつつきながら食べるのはとても楽しかったです。

外で練習して発表した校歌。最初に練習した時は、皆あまり声がでていないと思いました。でも、練習するたび声は大きくなってクラスの団結した雰囲気を感じました。

2日目の自然を満喫したオリエンテーリングの時、手のひらサイズのうさぎをを見つけました。とても可愛かったです。野生のうさぎ、そしてたくさんの木々を目にした2日間。私は団結力の大切さと、自然のすばらしさをひしひしと感じました。今後の学校行事では、キャンプでついた団結力を生かし、自然を大切にする気持ちを忘れず、浦和学院高校で成長していきたいと思います。

芸術鑑賞会

1年A組　**山口　春菜**
（越谷市立千間台中学校出身）

私は、今回のオペラ鑑賞で、芸術を身体・声で表現する素晴らしさを学びました。今回みた「愛の妙薬」でも、演じる役者の方々の声の表情から、主人公二人やその恋敵の心情が伝わってきて、オペラという「芸術」の表現法に深く感動しました。声を聴くだけでも、声域や声量、それに込められる感情の大きさが私達とここまで変わるのか、とおどろきました。

今回オペラというひとつの芸術にふれ、素晴らしさを知ることができて良い経験になったと思います。今後芸術作品を鑑賞する機会があれば、その表現法や趣向についてを知り、そこから何かを学びとりたいと思いました。

2年G組　**秋吉　圭**（さいたま市立白幡中学校出身）

受け継がれてくるものには理由がある。昨年この芸術鑑賞会で目にしたアクロバティックな演技は中国で何千年と受け継がれてきたものだし、今年のこの演奏も派手さこそなかれ日本の伝統芸能だ。

普段の生活の中からは淘汰されたものをあえて聴きに行く。一見無駄な行為にも見えるが、このハイテク化した時代に流れる時代錯誤の音色は、一種のアンチテーゼのようにも感じた。確かにコンピューターがあればどんな音でも作り出せるかもしれない。しかしこの場にあったのは、どんな電子音にも醸し出せない「雰囲気」が創り出した空間だった。細々とではありながらも、しっかりと流れ行く時代を生き抜いてきたものである何よりの証明であろう。

会が終わり、外に出てみると、いつのまにかしとしとと雨が地面を濡らしていた。数分前までの演奏に似合う、色とりどりの傘の花が咲いた。

キャリアガイダンス

期末テスト最終日、7月5日（金）に行われましたキャリアガイダンスは、769名の1年生が参加しました。このガイダンスは、将来の職業を考えるために仕事の事を知る、また、将来の選択のために役立ててもらうよう実施しました。講義は、大学や短大・専門学校の先生を招いて、「教育」をはじめ、「コンピュータ」「メディア」「看護」「公務員」など、31教室が開かれました。講義終了後、参加した生徒からアンケートをとりましたので一部紹介いたします。「英語が使えればどんな職業も就くことができるのだと思いました。通訳になりたいので、今日その話を聞いてさらに、意欲が高まったのでよかったです。」「自分がなりたい、と思っている職業以外のことも聞くことができ、様々なことへ興味を持つことができました。この経験を、職業や文理選択に役立てたいです。」など、ほとんどの意見が前向きなものばかりでした。今後は2学期に文理選択を実施していきます。後悔をしないようにじっくり考え、進路を確定できるようにして下さい。

1学年進路指導主幹　仁科　達夫

平成25年度入試に向けて

昨年度の入試の状況を振り返ると、まずはセンター試験が難化したことが1番に思い浮かぶ。主要教科の数学Ⅰ・Aと国語の平均点がダウンし、特に国語は過去最低の平均点となった。これにより受験生の志望動向が大幅に混乱した。今年度もセンター試験については、十分な注意が必要であろう。特に注意しておきたいのは、今年度で旧課程による入試は最後になる点である。来年度は、数学・理科が新課程に対応した出題となり、もし、3年生が現役合格できず既卒生となった場合、不利な状況になることは避けられない。これまで以上に現役合格を意識した対策が必要だ。

一方、AO入試や推薦入試の状況は、全国的に見ると縮小傾向にあり、多くの大学で一般入試での生徒獲得を目指している。縮小しないまでも、学力重視の試験を取り入れる学校が増えている。実際、今年から新たに本校を指定校として選んでくれた大学があるが、中には指定校推薦入試にも関わらず、学科試験を課し、点数が基準に達しない場合、不合格になるという学校もある。AO入試や推薦入試であっても、勉強を疎かにしないように。

いよいよ受験シーズンに突入する。これまでの成果が試される時期である。残された時間は人それぞれだが、最後の1秒まで手を抜くことなく、全力で乗り越えてほしい。

進路指導部長　高橋　広和

夏季合宿進学講座/特進類型

毎年恒例の特進類型夏季合宿進学講座が、今年度は7/26～/30の5日間、長野県にて行われました。この合宿のコンセプトは「学習体力の向上、自分への挑戦」です。そのカリキュラムとして朝から講義を6コマ、計9時間に及ぶ学習時間が課されます。一見無茶な時間数に思われますが、9時間講義を受けた後も3年生はもちろん、1,2年生も自習に励む生徒が多く、各々目標の学習体力を身につけられたことが最大の収穫です。大学受験にはまだ時間のある1,2年生は、カリキュラムの合間に組み込まれたグループワークや車山ハイキングで気分転換をしながら、一生懸命かつ楽しみながら活動していました。そのような中、今年度受験を控えた3年生の目は一際違って見えました。朝5時には自習を開始し、疑問を抱いた箇所については積極的に先生に質問にするなど、個々のやるべきことに集中していました。

閉講式では各学年ともテストの上位者が表彰されましたが、最終目標はただ一つ、「志望大学合格」という栄冠を目指して突き進んで欲しいと思います。

大学・短大説明会

例年は7月7日の七夕の日に行っている大学短大説明会ですが、今年度は8日月曜日に行いました。今年は7月6日には梅雨明けしてしまい、8日当日も朝からうだるような暑さでした。10時開始という予定でしたが、たくさんの生徒が時間前から集合していたので予定より早く受付を開始しました。会場となった第2校舎では、外気の暑さに加え生徒の熱気が充満し、エアコンの風も涼やかには感じないような有様でした。行事が最後の入試相談会とあって、既に第一志望校が決まっている生徒も、これから第一志望校を決めていく生徒も、皆一様に真剣な眼差しで大学の先生方の話を伺っていました。毎年この行事に来てくださる大学の先生方も多数いらっしゃいましたが、改めて今回の生徒の真摯な態度に感心してくださり、当日は80校を超す大学・短大の先生方が本校の生徒のためだけに相談を受けてくださいました。講師控室になっていた会議室は、用意していた机・椅子だけでは足らず、後方に補助椅子を用意する有様でした。

いよいよ3年生は本格的な受験シーズンに突入します。この七夕の翌日の相談会の場で、3年生の皆さんには良い出会いやめぐりあわせがあったに違いありません。いつでも自分を信じ、しかし謙虚に、冷静に、これからの進路活動に取り組んでいってもらいたいと思います。

3学年進学指導主幹　菅原　美香

サマーアートキャンプ/美術コース

8月26日（月）から28日（水）の2泊3日で、アートコース生徒36名と引率教員4名でサマーアートキャンプを行いました。今年のサマーアートキャンプでは、長野県小諸市にある懐古園を写生場所に選び、苔むした野面石積の石垣や樹齢500年といわれるケヤキの大樹など見どころが豊富にあり、写生をするうえで描きごたえのある魅力的な場所でした。

まず、アートキャンプ1日目には、懐古園内にある小山敬三美術館で絵画鑑賞を行いました。そして、午後から班ごとに写生場所を選定し、鉛筆による下書きから始めました。2日目には、絵の具による彩色を行いました。連なる木々の空間や、石垣の質感を観察しながら、慎重かつ大胆に色をのせていきます。生徒たちは、いつもと違う環境のなかで大きな画面を埋めていくことに四苦八苦しながらも集中力を持続させていました。そして、最終日の3日目には、宿泊場所である文化学園軽井沢山荘の会議室で、作品の仕上げを行いました。最終日だけあって、誰ひとりとして私語をせずに集中して作品の制作に取り組んでいました。今回のアートキャンプでは、昨年よりも作品のレベルも上がり、生徒らも充実した3日間を過ごすことができました。

クロスカルチャーツアー

2年Ｉ組　**後藤　綾太**（さいたま市立宮前中学校出身）

私がクロスカルチャーツアーに参加しようと思った理由は、日本で英語を勉強していても、それを使わなければ意味がないと思ったからです。自分の英語がどこまで通じるのか不安でもあり、楽しみでもありました。アメリカでは、平日は毎日大学に行き、午前は授業を受け、午後はアクティビティでした。授業は全て英語でしたが、先生が何度も教えてくれて理解できました。アクティビティでは、世界のいろいろな国の人とも交流ができて楽しめました。ホストファミリーも家族のように接してくれて嬉しかったです。クロスカルチャーツアーに参加して、一番痛感したことは、日本語を話したくても話せない環境におかれて初めて、自分の英語力がなくてくやしいと思ったことでした。この経験を生かし、いつまでもジェスチャーに頼らないような本当の英語力を身につけていきたいと思いました。

今年も【浦学ふぁみり～応援写真コンテスト】に応募しよう！

今年もまた、『がんばる仲間をみんなで応援』をスローガンに
「浦学ふぁみり～応援写真コンテスト」を実施します。

日　程
- ○応募期間　2013年11月30日（土）締切
- ○投票期間　3年生……2014年1月14日（火）～20日（月）
  1,2年生……2014年1月14日（火）～28日（火）
- ○結果発表　2014年2月6日（木）

応募方法
1．対　象　部活動、学校行事、ボランティア活動など学校生活の様子
2．提出物　①写真、ＳＤカード、ＵＳＢメモリーのいずれか
②応募用紙（用紙は学校に用意しています。または下記ホームページからも印刷できます。）
応募者名、撮影日、大会・イベント名、撮影シーンの説明を記入
＊生徒の場合は学年・クラスも記入
3．提出方法　生　徒→担　任
保護者→生　徒→担　任

＊部活動大会の応援時撮影写真など、生徒のみなさんはもちろん、保護者の方々からもたくさんのご応募をお待ちしております。お子様を通してご応募ください。

※学校の情報が満載のＨＰ「浦学ふぁみり～」（http://www.uragaku.ac.jp/family/）は≪浦和学院高校ホームページ→浦学ふぁみり～≫からご覧になれます。

ボランティア報告

3年Ｈ組　**井上　紗希**（吉川市立南中学校出身）

活動日：平成25年6月9日　活動場所：アジア・アフリカと共に歩む会事務局（TAAA）
活動内容：アフリカに送る本の梱包

私は、今回初めてボランティアに参加しました。初めてのことなのでいろいろと惑うことがありましたが、野田さんをはじめとするTAAAのみなさんが優しく教えてくださったので、初めにあった不安も消え、ボランティアができました。TAAAのみなさんは、今までアフリカに本を39,7884冊、サッカーボールを1,111個など多くのものを寄贈していることを聞き、とても驚きました。今回の本の包装で私達もTAAAの活動を少しでも手伝うことができるのだと思うと、すばらしいことだと感じました。本の包装も簡単そうですが実際に行ってみると、本の種類や入れた本の数を間違えずに正確に行わなくてはならなかったので、想像以上に大変でした。しかし、このような大変な作業でも、地道に行っていくおかげで、アフリカの子供達の何らかの助けになっているのなら、この上うれしいことはないのだなと感じました。

2年Ｘ組　**小野寺　正人**（さいたま市立岩槻中学校出身）

活動日：平成25年6月23日　活動場所：県立近代美術館
活動内容：作品の搬出作業

今回のボランティア活動では、作品の搬出作業を行いました。私は午前中に洋画の搬出を任されました。出品者が続々と作品を引き取りに来るので迅速な対応が求められる作業でした。私は、今回こそは積極的に動こうと決めていたので、指示を受ける前に職員の方が行っている作業を覚えて作業しました。そして、出品者に作品を渡す時は丁寧な言動を心がけました。出品者や職員の方々にお礼を言われたり褒められた時は、このボランティアをやって良かったと思いました。午後からは展覧会の後片づけを手伝いました。ここでも、自分の体力を活かせる仕事が多く、職員方の力になれて嬉しかったです。

ボランティア終了後に職員の方々は「また来年も是非、来てください。」と言ってくださり、自分がしっかり役に立てたことを実感し、非常に嬉しかったです。今回のボランティアで、私は非常に多くのことを学びました。今回を機に他のボランティアもやってみたいと思いました。

特別進学コース

2年B組　**本多　そらな**
（国立埼玉大学教育学部附属中学校出身）

私がこのプロジェクトに参加しようと思った理由は2つあった。

一つ目は、将来の夢が教師だから。小学校で子供たちに勉強などを教える―自分は本当に教師に向いているのか、教師になりたいのか確認するためだった。二つ目は東日本大震災が起きてから、ボランティアに行って被災地の状況を見てみたいなぁとずっと思っていたが、高校生なので車は持っていないし、向こうに行って一人で泊まることもできないので行きたくても行けなかったからだ。

私は小学校に着く前、小学生と何を話そうか、何を話したら喜んでくれるか、元気になってくれるか考えていたが、その必要はなかったと小学生と接して分かった。想像以上に明るく、積極的に話しかけてくれたのだ。私達よりもあいさつの声が大きくて、元気を与えるはずの私達が小学生から元気をもらってしまった。夢はあるの？と聞いた時、「京都で和菓子を作りたい」「お母さんと同じ仕事がしたい」「人の役に立つ仕事がしたい」と、みんなキラキラした目で教えてくれた。私も子供たちに同じ質問をされたので「教師」と答えたら「あぁ、似合ってる！」と言われて後押しされたようで嬉しく、自信を持てた。寄磯小学校の子たちとは一緒にプールに入った。津波の影響で水が苦手になってしまった子などいるかもしれないと思っていたが、そんなことは全く無く、みんな「本当に震災にあったの？」と疑ってしまうぐらい元気にはしゃいでいた。

子鹿クラブの野球をしている小学生に勉強を教えた時、私が担当した子は、3年生でお兄ちゃんが野球をしているから僕もやり始めたと言っていた。中学に入ったらテニスがしてみたいとも言っていた。私はすごいなぁと感心した。私がもし震災にあっていたら、好きなこともやめて、暗い人間になっていたと思うからだ。こんなに前向きに「今」を生きている小学生を尊敬した。

よくテレビで見ていた被災地は、見渡す限り草だった。建物もあまりなく、最初「ここに家があったんだよ」と言われてもピンとこないぐらい家の跡など全く見当たらなかった。がれきは撤去されて所々に山積みになっていた。防災センターは鉄骨だけ残っていた。その建物や津波の高さを示した棒を目の前にしてみることによって、津波の大きさがどれほどすごいものだったのか知ることができた。やはり、テレビだけでは何も分からないのかもしれない。被災地の人と実際に交流してみないと何を考えて何を思っているのか、明るいのか暗いのか、何を望んで何を嫌がっているのか、きっと勝手な憶測だけで終わってしまうと思った。大川小学校に行った時、私は想像してみた。自分がこの学校の生徒だったらどんな行動をとっていただろうと。「自分の命は自分で守れ」とあるが、私が小学生だったら、先生の指示を無視することはできなかっただろうし、一人だけみんなと違う行動をとる勇気もでなかったと思う。だから先生たちのせいだけではない気もした。万が一の場合にそなえて、避難経路を確認しておかないとダメだなと思った。

私は、このプロジェクトに参加して本当に良かったと思う。今までは、募金など表面上の支援しかできていなかったが、今回の活動によって、被災地の内面、人と人との交流をすることができたからだ。参加していなかったら被災地を訪れることは当分の間できなかったと思う。この機会を作ってくれた方に感謝したい。私としては、1年に1回ではなく、1年に3回ぐらい機会を作ってほしい。被災地の方とたくさん会話して、現地の食べ物を食べる。それで支援になるなら何度でも行きたい。元気を与えるのはもちろんだが、元気をもらって前向きな姿勢を見習いたい。色々な人に現地の様子を知ってもらいたい。一生この思い出は忘れないと思う。見たこと、聞いたこと、体験したこと、感じたこと、全てを忘れずに「今」を大切に生きていきたい。

保健医療コース・特別進学コース 石巻体験交流活動に参加！

夏のボランティア

7月23日（火）～26日（金）保健医療コース生徒7名、8月7日（水）～8月10日（土）特別進学コース生徒14名の参加による石巻交流体験活動が行われました。

保健医療コースでは、携帯型心電計による心電図や血圧の測定、利用者の方々とのコミュニケーションを図りました。特別進学コースでは、「学習サポート」が行われ、石巻の保育園生・小学生と遊び、また、勉強を教えるという体験を通し、生徒たちが目指す将来の夢に一歩近づくことの出来た貴重な時間になったと思います。

今回、ご協力して頂いた石巻の皆様方、本当にありがとうございました。

↑特別進学コース

保健医療コース↑

保健医療コース

2年V組　**内橋　李緒**
（さいたま市立八王子中学校出身）

被災地の視察や老人保健施設の翔裕園で体験をして一番に感じたことは、自分の五感で確かめたり、感じたりしないと見えるものも見えなくなってしまうということだ。テレビや新聞、本などで東北の災害状況を見たり、聞いたりしていたが、それは一部分のことでしかなかった。少しずつではあるが、家が建った、という話を聞くと全体的に建ちはじめたような印象を受けるが、そうではなかった。個人的に、テレビで放映されているものというのはどこか別のこと、と捉えがちなところがあり、あたりまえのことですら見落としているところがたくさんあった。メディアの情報にも限りがある。これらのことより、自分の「肌」で、「目」で、「鼻」で感じることが大事だと考えた。また、南方ナーシングホーム翔裕園では、普段関わる機会が少ない年齢の方々とコミュニケーションをとらせて頂いたことによって、少しの段差や椅子の足に注意することなど、小さな気配りで危険を回避することができるのだということを知った。物一つとっても、一つ手を加えることでいくつもの心配を減らすことができ、細かいことに気が付くことができるということは、老人ホームだけでなく、どこにでも通用するものだと考える。何事も自分で実際に見て感じるということと、小さな工夫をこれからは大事にしたいと感じた。

第2期耐震工事－全施設、耐震化完了

この夏、安全と思われていた未災地「埼玉」でもさまざまな災害に襲われ「被災地」となりました。水害・雷・竜巻、想定外の出来事が発生します。

本校でも「生徒・教職員の安全第一」を優先した事業として、昨年に引き続き耐震工事が行われ、対象となる第1～3校舎の耐震化を完了致しました。「備えあれば憂いなし」、浦和学院高校は、美観を考慮したスパック工法を採用し、機能性にも工夫を凝らしました。

↑スパック工法は柱を太く、美観を損ねない工法

石巻交流センターの社会貢献

今年度新設された石巻交流センター。本校で理科講師として教鞭をとる傍ら、現地との交流連携・語り部を担当する畠山特任センター長への講演依頼が予想以上の反響を呼んでいます。小・中学校はもとより教育委員会・社会福祉協議会を通じた一般講演も多く8月末日現在13件を実施、今後も年内に25件。講演後の御礼の手紙には「何かをしたかったが、何をすべきかヒントを得た」「災害の恐ろしさを改めて感じた」「現地の人たちの事を思い、自分たちがどれほど恵まれているか感じた」と寄せられています。

本校ホームページでは、実施記録と講演予定を掲載しています。是非、身近な地域での講演会に足をお運びいただき、リアルタイムな被災地の現状、未災地での防災・減災にお役立て下さい。

野球部森監督 講演会のお知らせ

春の選抜高校野球大会で優勝した野球部監督、森教諭の講演会を実施します。100名の大所帯組織をまとめ、「全国優勝」という快挙を成し遂げた野球部の日頃の活動状況。そして、栄光の裏には苦労話、秘話。本校生徒・保護者・関係者だから聞ける話、「浦学ふぁみり～」を対象とした講演会を予定しています。

この講演会は、本校生徒主体に行われますが、「浦学ふぁみり～」に限定し公開致します。生徒・保護者の方には、後日プリントが配布されます。今後の学習に、組織運営に、会社経営などにお役立て下さい。

■日時　平成25年11月29日　金曜日
Ⅰ・Ⅱ部制
■会場　さいたま市文化センター
（JR南浦和駅徒歩７分）
■対象　「浦学ふぁみり～」に限り予約制